

福岡アジア美術館 インフォメーションパッケージ

福岡市
令和7年7月

1.アジア美術館の基本情報

施設概要

本事業では、福岡アジア美術館(博多リバレイン7,8階)の展示機能等を警固公園地下に拡充する計画である。以下に、現行の福岡アジア美術館の概要を示す。

概要

項目	内容
設置者	福岡市長
設立年月日	1999年3月6日
所在	福岡市博多区下川端町3番1号 (博多リバレイン)
年間来館者数	427,858人(2023年度)
職員数	29名(令和6年7月1日現在) 館長(総括)、運営課、学芸課等
取得額	保留床取得価額12,552,002千円

規模・構造

項目	内容
建物面積	151,595.51㎡のうち 区分所有専有面積9,101.05㎡
土地面積(共有持分)	宅地15,932.95㎡のうち 持分1,000,000分の113,856㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下4階地上13階のうち 地下1階～地上9階の一部
主要施設面積	アジアギャラリー1,111 ㎡(7F) 企画ギャラリー1,005 ㎡(7F) 交流ギャラリー370 ㎡(8F) 収蔵庫503㎡(8F)/ 格納庫171 ㎡(8F) あじびホール(120席)172 ㎡(8F)



建物外観

エレベーター
ホール



基本理念

アジアとの交流拠点、福岡

- 福岡市は、古代からアジア文化の受容窓口であったという地理的、歴史的な特質をふまえて、長年にわたり、アジアの交流拠点都市としての役割を歴史的に果たしてきました。福岡アジア美術館は、その福岡市のアジアとの交流への先進的な取り組みのひとつとして1999年に誕生しました。以降も次のような活動によって、日本をはじめ、アジア、世界からの注目を集めています。

世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館

- 福岡アジア美術館は、アジアの近現代の美術作品を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館です。それらの作品は、西洋美術の模倣でもなく、伝統の繰り返しでもない、変化しつづけるアジアの「いま」を生きる美術作家が切実なメッセージをこめて作り出した、既製の「美術」の枠をこえていくものです。広範で質の高いアジアの近現代美術作品の展示は、世界のどの美術館とも異なる独自性と魅力を持っています。

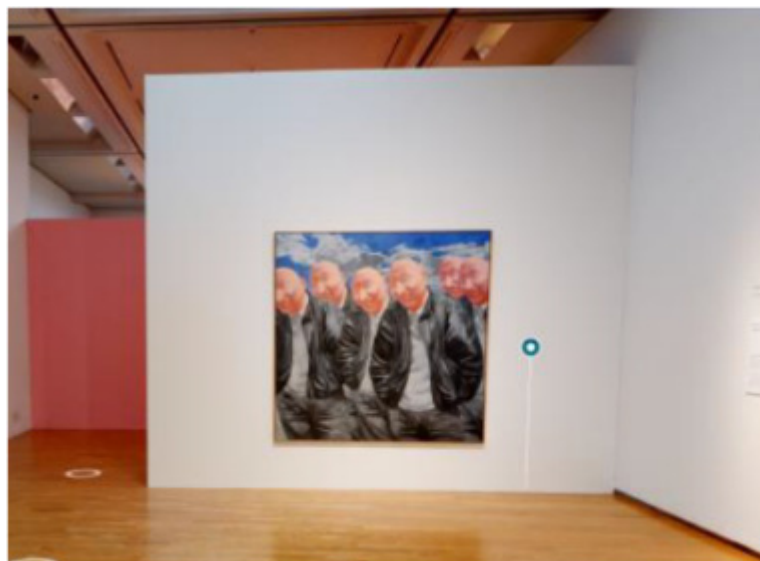
創造・発信する交流の場

- 福岡アジア美術館は、アジアの美術作家や研究者を招へいし、滞在制作やアジア美術の研究など様々な美術交流を通して、人々がアジアの美術・文化に親しむ場として機能してきました。福岡・日本とアジアが、また市民と美術にたずさわる人々が、たんに出会うだけではなく、互いに理解し、共に創造し発信していくことを目指す交流型の美術館です。

「まち」の中のライブな美術館

- 福岡アジア美術館は、福岡と博多の「まち」のエネルギーがうずまく都心にあります。この「まち」に生きる人々が、アジア美術を通してアジアの「いま」へ最短距離でアクセスできる都心型の美術館です。また、アジアの美術作家たちも、「まち」特有の場所や表現方法を活かして、「まち」を生きる人々へとアプローチしていきます。

施設概要(写真)



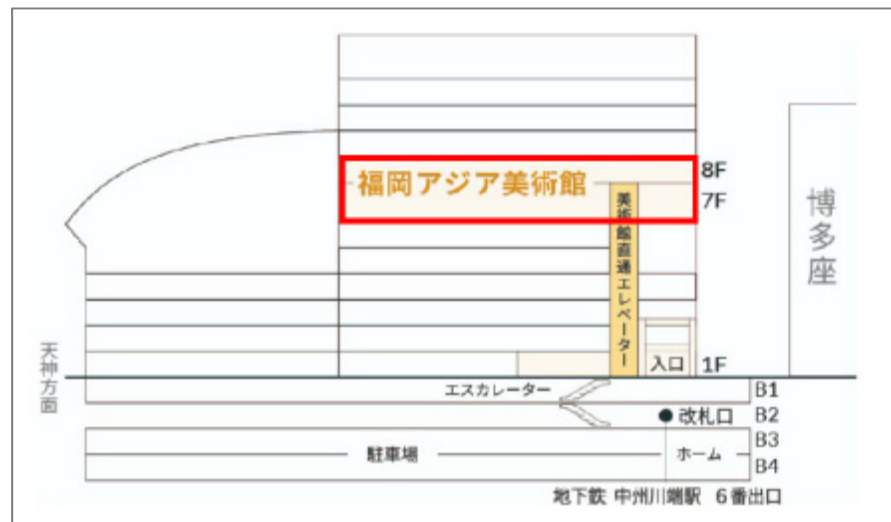
立地

福岡アジア美術館は福岡市の中心市街地に位置しており、中洲川端から直結でアクセス可能であるほか、博多駅からもほど近い立地となっている。

アクセス方法

交通手段	アクセス
地下鉄	中洲川端駅下車、6番出口直結
西鉄バス	川端町・博多座前バス停下車、徒歩すぐ
車	太宰府方面から都市高速千代ランプより車で約7分 北九州方面から都市高速呉服町ランプより車で約5分
駐車場	リバレインセンタービル地下4階(有料)

地下鉄中洲川端アクセス

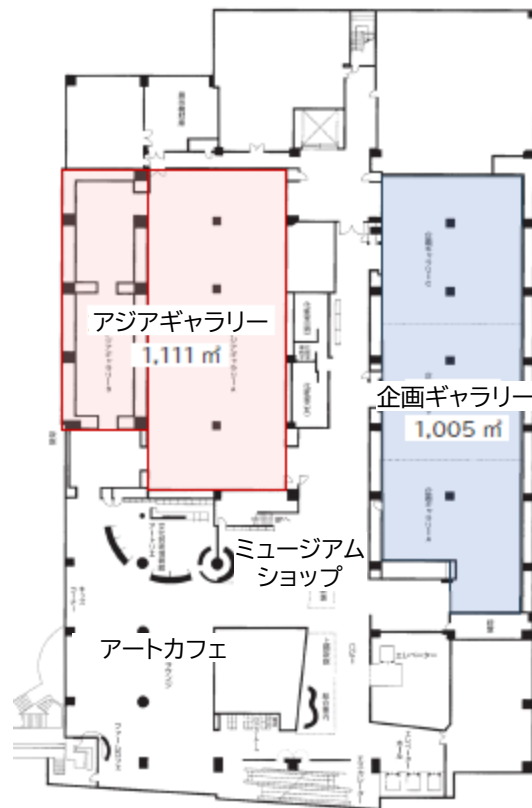


平面図

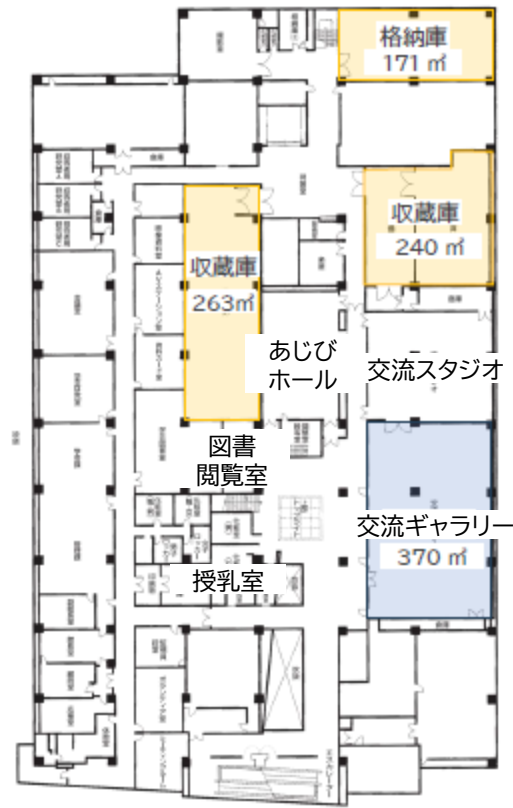
7, 8階の平面図と主要諸室の面積を以下に示す。

<各階平面図>

7F



8F



室名	面積(m²)(約)
企画ギャラリー	1005
アジアギャラリー	1111
交流ギャラリー	370
アートカフェ	642
交流スタジオ	223
あじびホール	172
図書閲覧室	44
授乳室	15
ミュージアムショップ	78

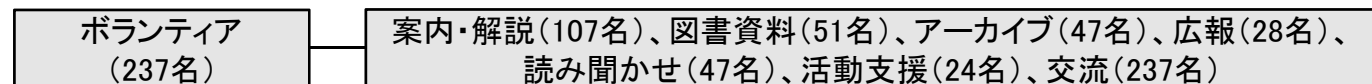
組織と活動

開館時からの基本理念を軸に、アジア美術の調査研究、展示、収集、交流事業、教育普及等を行っている。これら活動を通じて、福岡の文化芸術振興に貢献する役割を果たしてきた。
組織構成を以下に、活動内容を次頁に示す。

組織

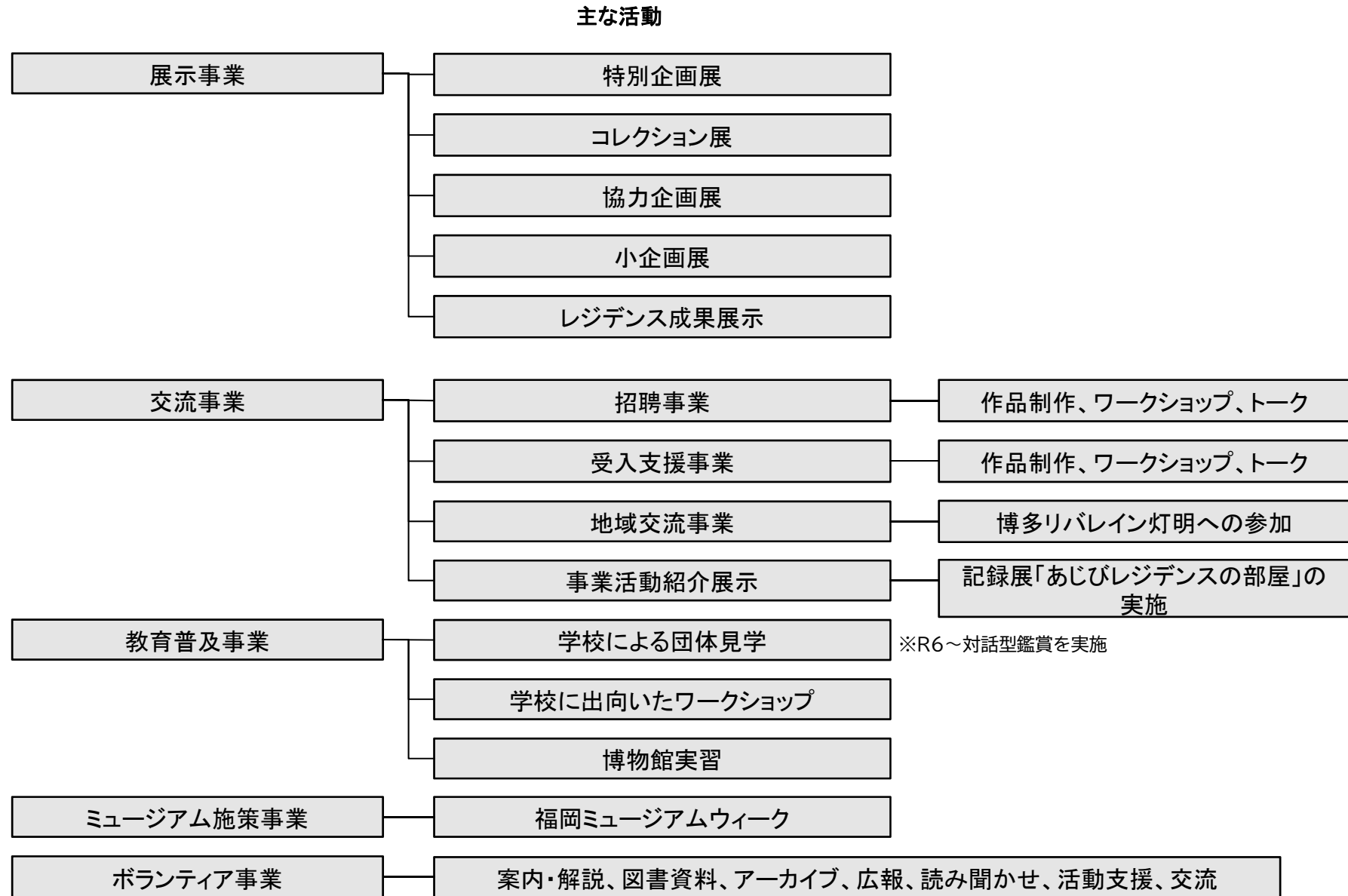


計30名(令和7年4月時点)



計237名(令和7年2月時点)

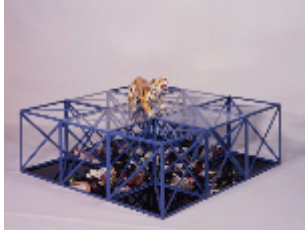
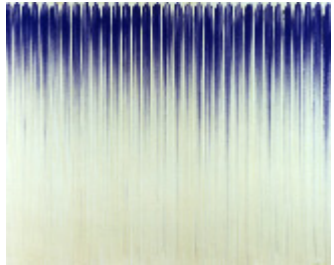
組織と活動



主な収蔵品

開館以前から収集されたアジア23ヶ国・地域の、多様なジャンルの作品を網羅する約5,500点は質量ともに世界随一である。3つの収集方針と主な収蔵品を以下に示す。

- (1) アジア美術の近代から現代へ至る流れを系統的に示す作品
- (2) アジアの近現代美術を考える上で重要な、民俗芸術や民族芸術、大衆芸術
- (3) その他、アジアの近現代美術を考える上で重要な、伝統的な美術・工芸

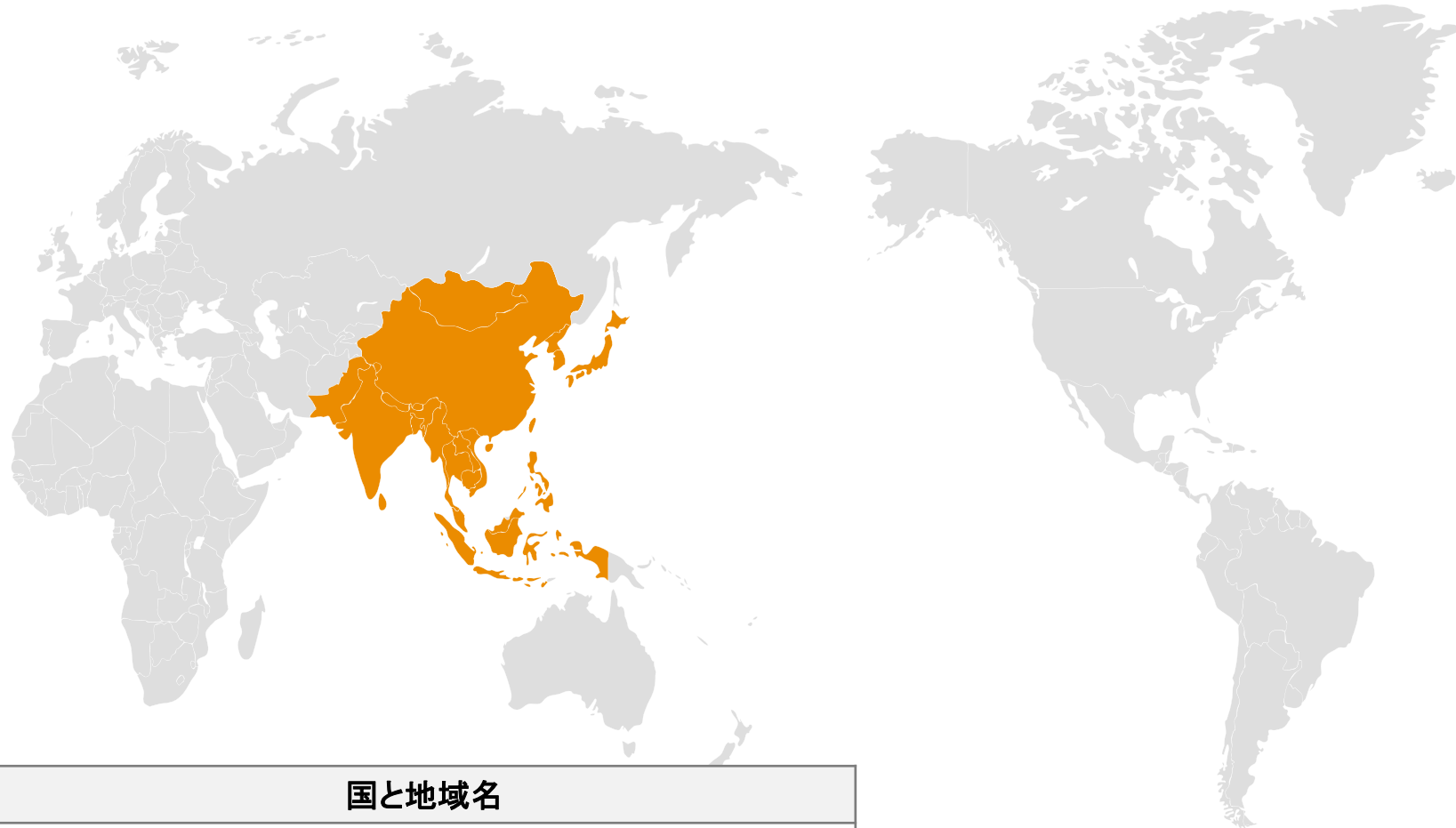
				
ファン・リジュン 《シリーズ2 No.3》 1992年	ラシード・アライーン 《ティグリス》 1992年	リン・ティエンミャオ 《卵 #3》 2001年	N.N.リムゾン《内なる声》 1992年 photo by Shinomiya Yuji	イ・ウファン [リ・ウファン]《線より》 1977年
				
イー・ブル 《さなぎ》 2000年	ジャン・シャオガン 《若い娘としての母と画家》 1993年	ツイ・グオチアン《私はE.T. 天神と会うためのプロジェクト Project for Extraterrestrials No.4》1990年	ディン・Q・レ 《南シナ海ピシュクン》 2010年	ナリニ・マラニ 《略奪された岸辺》 1993年

福岡アジア美術館「ベストコレクション」展 作品紹介ページより、10点を掲載

展覧会開催概要 2023年9月14日(木)～2024年4月9日(火)
会場: アジアギャラリー

(参考)アジア23ヶ国・地域の詳細

収蔵品の収集対象としているアジア23ヶ国・地域を以下に示す。



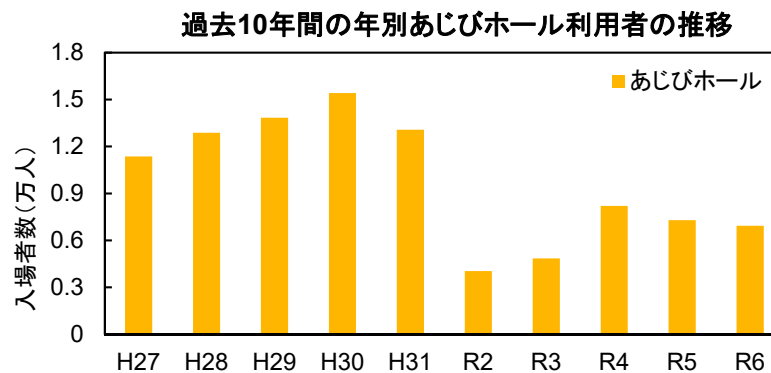
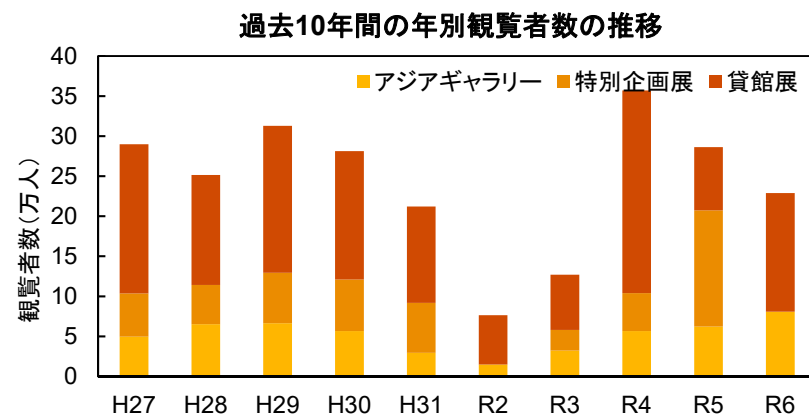
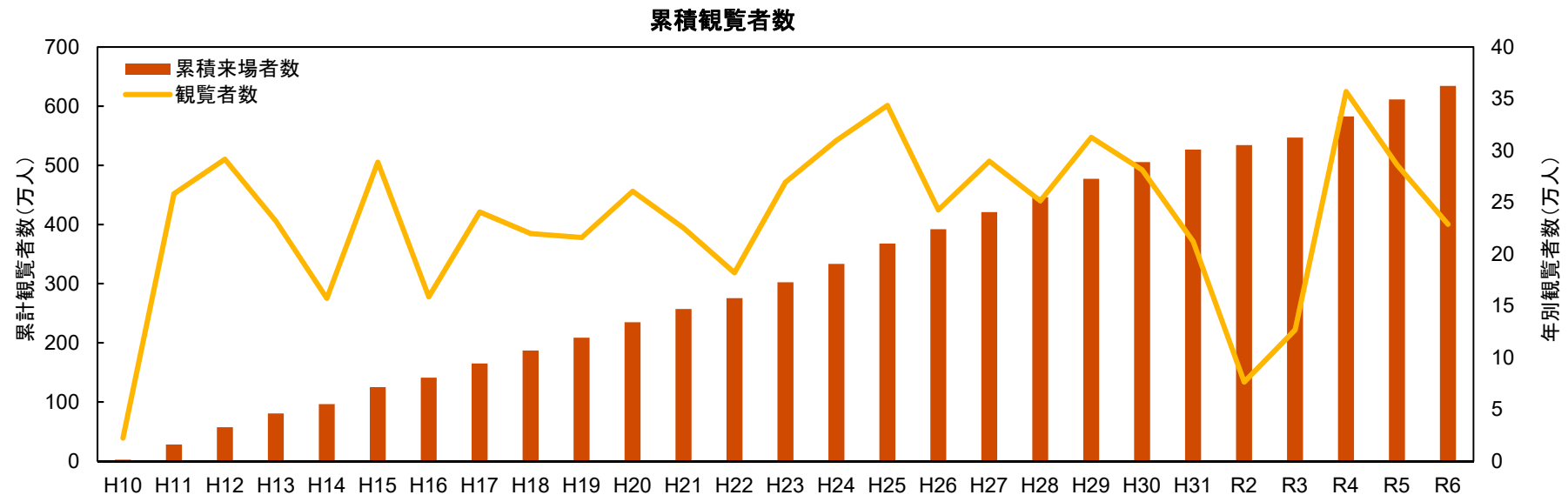
国と地域名

日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、インド、スリランカ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブ

■ : 収集対象とするアジア23ヶ国・地域

来館者数

累計入場者数は令和6年度末に634万人に到達した。



現在の入館料・使用料(1/2)

入館料・観覧料

(単位:円)

区分			単位	料金
入館料				無料
アジアギャラリー 観覧料	個人	一般	1人1回につき	200
		大学生又は高校生		150
		中学生以下		無料
	団体 (20人以上)	一般		150
		大学生又は高校生		100
		中学生以下		無料

※特別展観覧料は別に定める

現在の入館料・使用料(2/2)

企画ギャラリー／交流ギャラリー使用料

(単位:円)

種類		単位	金額(入場料なし)	金額(入場料あり)
企画ギャラリー	A	1日	10,800	21,600
	B		9,300	18,600
	C		8,400	16,800
	全室		28,500	57,000
交流ギャラリー				10,600

アートカフェ使用料

(単位:円)

区分	金額(入場料なし)	金額(入場料あり)
1日当たり単価	200円/m ²	400円/m ²

あじびホール使用料

(単位:円)

利用区分	金額(入場料なし)		金額(入場料あり)	
	平日	土・日・祝	平日	土・日・祝
9時～12時	6,400	7,680	12,800	15,360
13時～17時	12,800	15,360	25,600	30,720
18時～22時	16,000	19,200	32,000	38,400
9時～17時	16,000	19,200	32,000	38,400
13時～22時	28,800	34,560	57,600	69,120
9時～22時	32,000	38,400	64,000	76,800
美術品を展示する場合(1日につき)	10,600		21,200	

2. 拡充施設に関する情報

拡充施設の検討経緯

福岡市では、令和5年度より、拡充施設の検討を開始した。

年	月	項目	内容
令和6年	2月	議会報告	アジア美術館の魅力向上と警固公園地下駐車場を有力候補とした、展示機能の拡充に関する調査検討を進めていくことについて報告
令和6年	3月	-	開館25周年を迎える
令和6年	7月	第1回 有識者会議	【アジア美術館の現状と課題及び魅力向上の方向性】 (1)現状と課題の整理 (2)魅力向上の方向性
令和6年	8月	第2回 有識者会議	【拡充候補地の条件整理】 (1)拡充候補地に必要な規模感 (2)拡充候補地選定の前提条件 (3)拡充候補地の比較検討の評価項目
令和6年	9月	議会報告	機能拡充の方向性、拡充先の条件整理について報告
令和6年	10月	第3回 有識者会議	【拡充先選定にあたっての評価・比較】 (1)拡充先として考えられる土地の選定 (2)評価・比較
令和6年	12月	議会報告	拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証について報告 ⇒拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定
令和6年	12月	第4回 有識者会議	【今後の方向性に関する論点の整理】 (1)アジア美術館の活動における強みと弱み (2)都市施策・外的環境 (3)論点の整理
令和7年	6月	議会報告	魅力向上の基本的な方針について報告

事業目的

基本理念の達成に向けた課題として、設備の老朽化による機能低下や展示スペースの不足等があるため、施設の拡充により、展示機能や集客・賑わい機能の強化を図る。

「基本理念」	
・アジアとの交流拠点、福岡	・創造・発信する交流の場
・世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館	・「まち」の中のライブな美術館

現状分析	達成できている点	- 先駆的な取り組みを継続してきた結果、開館より25年を経て、確固たる地位を築いている - 優れた芸術性と独自性を持つアジアの近現代美術作品を収集・展示しており、国内外の美術関係者からの評価は高く、市民の貴重な財産となっている - アジア近現代美術の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を系統的に収集し、その数は約5,500点にのぼる
	主な課題	- 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない - 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない - 設備の老朽化により機能が低下している - 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

事業目的
福岡アジア美術館において、コレクション展の観覧者数は、年間約5万人でほぼ横ばいに推移しているが、アジア美術への認知・関心が低いことからコレクションでの十分な集客ができていない。そして、立地に関する課題として複合ビルの上層階に位置し、複雑な導線となっている問題も抱えている。また、展示壁・天井・照明等が20年以上前の設備で構成されているため、全体的な機能が低下しており、来館者にとって館内の雰囲気や体験の質が低下している。さらに、インスタレーション・立体等の大型作品や映像作品の増加により、展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている。そこで、福岡アジア美術館の魅力向上に向け、新たな機能を充実させた施設拡充を図り、コレクションを中心とした多様な企画展示や多様な来客動機の創出を図る。

魅力向上の方向性

現状の課題認識と事業目的に基づき設定した拡充施設の3つの基本方針と現アジア美術館との機能分担のイメージを以下に示す。

美術館全体の方向性

方針	具体内容
①【展示関係】 コレクション展の充実・展示機能の拡充	・市民がアジア美術に触れる機会を増加させ、価値や魅力を伝える ・コレクションを十分に活かした展示ができ、気軽に立ち寄り鑑賞するための展示機能の拡充
②【収蔵関係】収蔵機能の拡充	・コレクションを適切に管理・活用するための収蔵機能の拡充
③【魅力向上に資する機能】 その他 魅力向上に資する機能の拡充	・魅力向上に必要な集客・賑わい機能の拡充

主な機能分担のイメージ

【現アジア美術館(7・8階)】

- ★収蔵機能
- ★貸館機能
市民や企業の発表(展示)の場
- ★調査研究機能
アーカイブ(これまでに収集・蓄積してきた作家資料、所蔵品資料、写真資料、映像資料等)、ライブラリー、作品研究室

【拡充スペース】

- ★展示機能
コレクションを中心とした多様な企画展示
魅力的でダイナミックな展示
- ★集客・賑わい機能
多様な来館動機の創出
アジア美術との出会いの機会の創出

★拡充する機能 / ■既存の機能

拡充施設の立地・周辺環境

本事業では、福岡県福岡市に所在する警固公園地下駐車場を活用する方針である。

項目	内容
住所	福岡県福岡市中央区天神 2丁目2番地 警固公園地下
延床面積	約11,292m ²
アクセス(駅・ICより)	
- 最寄り駅	西鉄天神大牟田線「西鉄福岡(天神)駅」から4m
- その他	博多駅から2.0km 福岡空港から4.5km
アクセス(現福岡アジア美術館より)	
- 距離	約1.0km
- 公共交通機関	約10分



拡充施設周辺のまちづくり方針

警固公園は福岡市が九州・アジアの交流都市となるうえで中核となる都心部地区に位置しており、公開空地の創出等と連携した回遊性の強化に資する取り組みが求められている。

福岡市基本構想(H24)、福岡市第10次基本計画(R7)

都市像として「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」が掲げられている

福岡市都市計画マスタープラン(H26)

拡充施設の位置する天神地区は地域別構想“都心部”において、出会いと交流を促す創造的な場づくりや魅力ある景観が連続する回遊空間の創出が目指されている。



福岡市総合交通戦略(H27)

都心部地区の公共交通の利便性向上と自動車交通の円滑化のため、フリンジパーキングの検討や駐車場の集約化などが位置付けられている。

福岡都心部地区(第5期)都市再生整備計画(R5)

九州・アジアの交流都市にふさわしい都心部の機能強化と魅力づくりに向け、「都心部の核となる拠点の形成・機能強化」、「都心部の回遊性の強化」、「官民が連携したまちづくりの推進」が掲げられている。そのモニタリング指標を以下に示す。

指標	定義
都心部主要駅乗降客数	都心部の主要駅(天神・博多)における乗降客数
都心部の従業者数	都心部における民営事業所の従業者数
都心部の1日あたりの歩行者交通量	都心部の主要地点における歩行者交通量
身近な緑への満足度	身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合

天神ビッグバン、博多コネクティッド

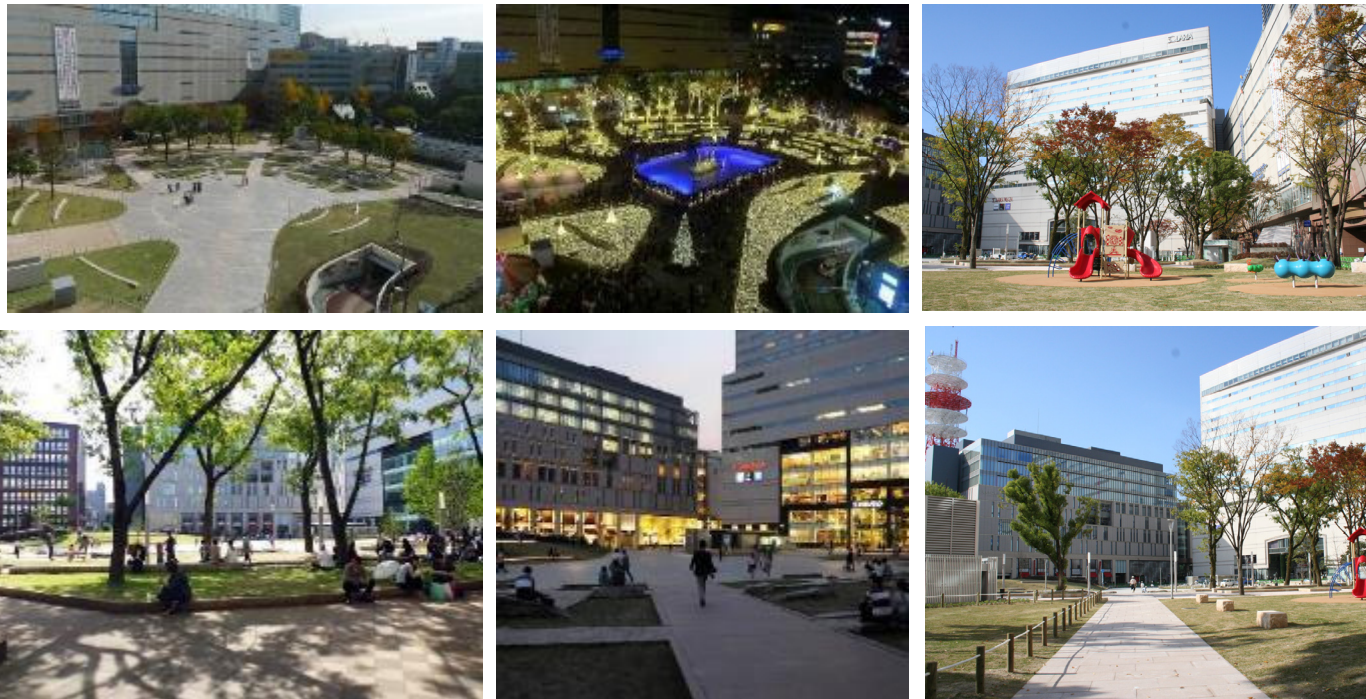
規制緩和を活用し、先進的なビルへの建替えを促し、その建替えにあわせ、水辺や緑、文化芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかける取り組みを進めている。

拡充施設地上部(警固公園)の再整備

警固公園はかつて犯罪の防止と迷惑行為の抑制が急務の課題となっていたことから「防犯と景観の両立」をデザインコンセプトに、平成24年に同公園の再整備事業が実施された。本再整備により治安改善と共に周辺商業施設のリニューアル等への波及効果をもたらしている。

出典:土木学会デザイン賞HP

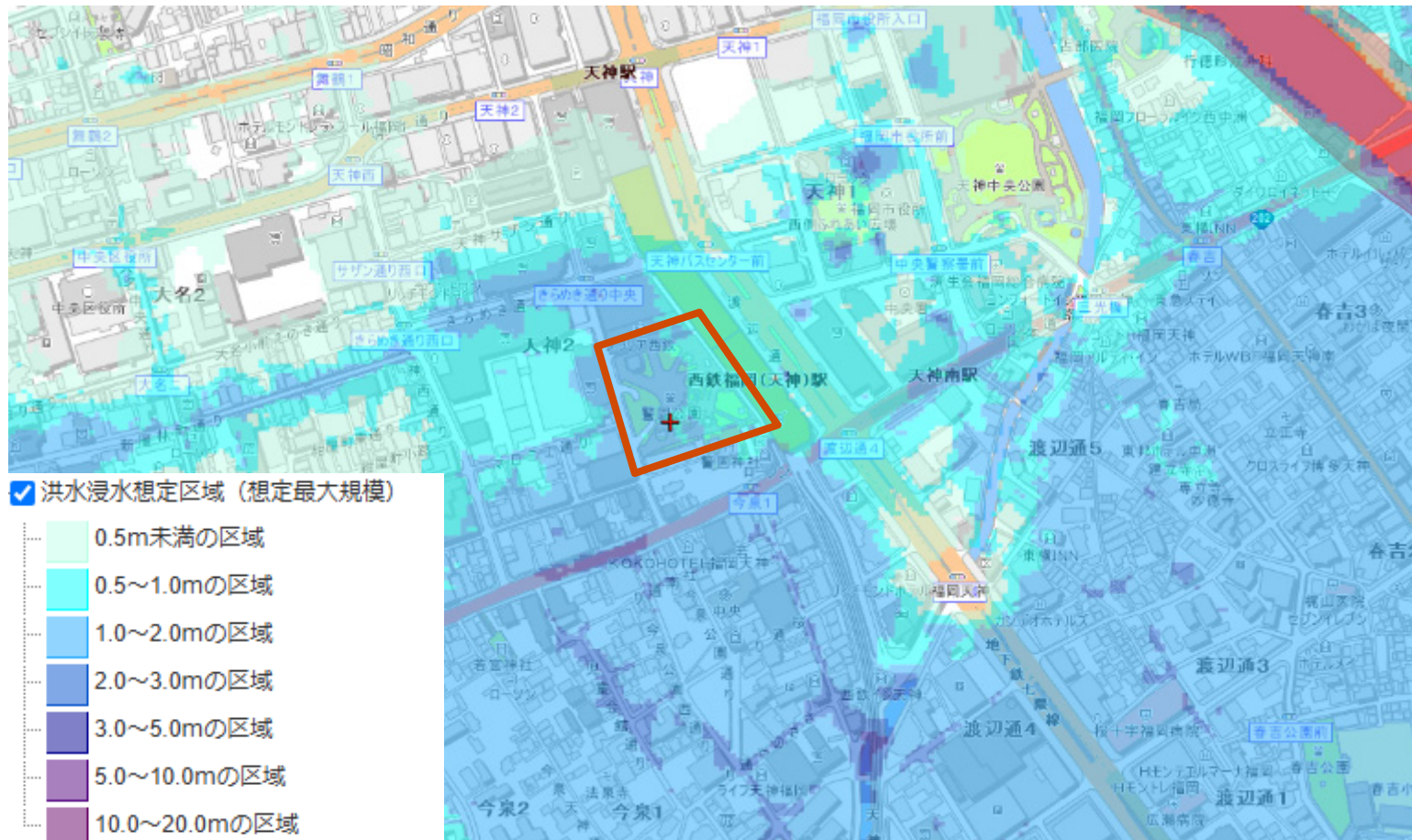
平成24年の再整備後の警固公園



拡充施設の現況－ハザード(1/2)

拡充予定地周辺の敷地における洪水浸水想定深さについては以下の通り。

洪水浸水想定深さ: 約0.5m~2.0m

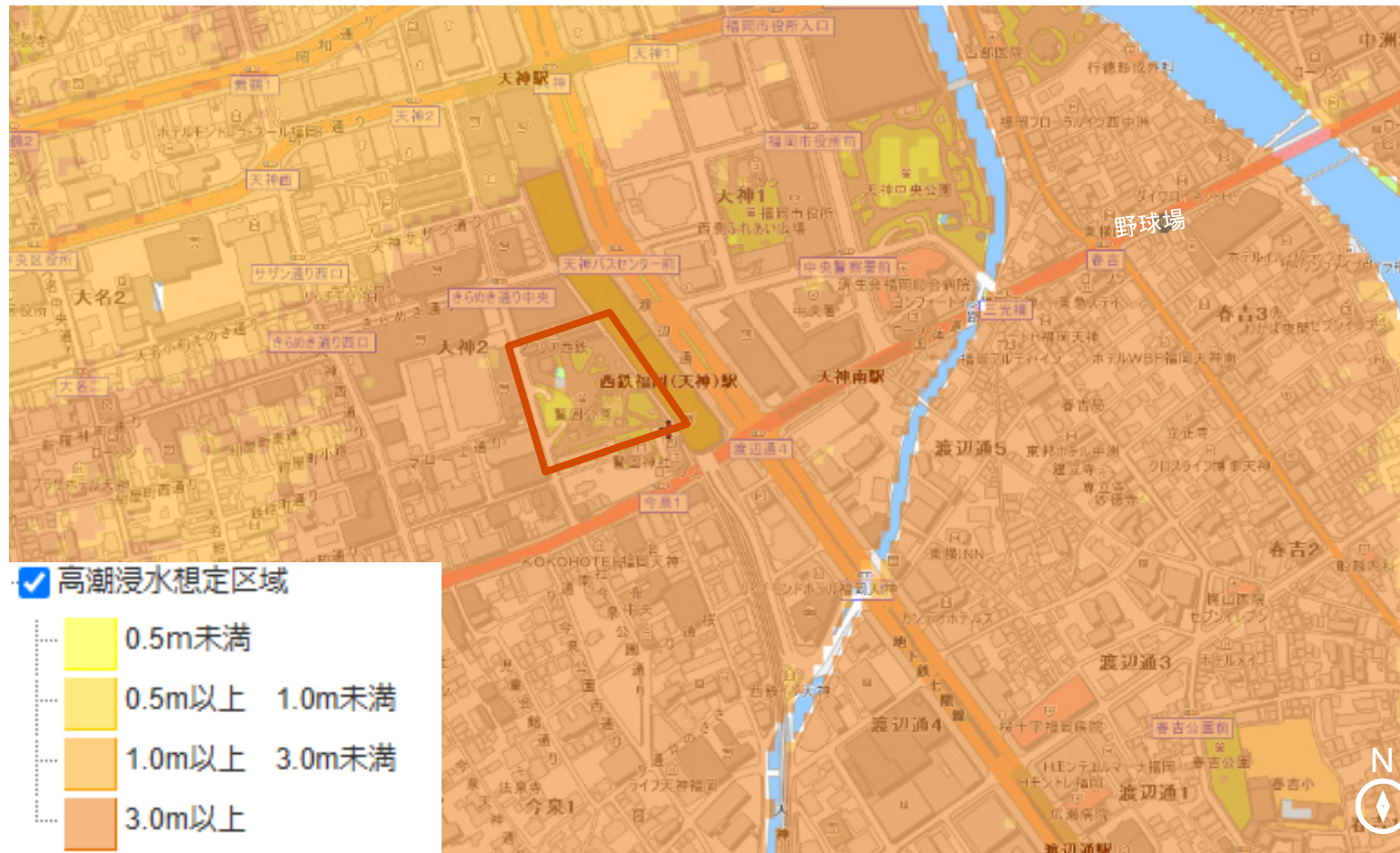


出典:福岡市総合ハザードマップ 洪水浸水想定区域(想定最大規模)

拡充施設の現況－ハザード(2/2)

拡充予定地周辺の敷地における高潮浸水想定深さについては以下の通り。

高潮浸水想定深さ: 約3.0m以上



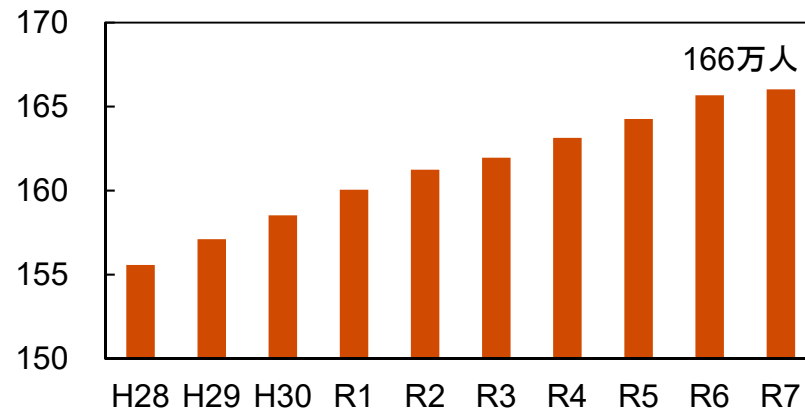
出典:福岡市総合ハザードマップ 高潮浸水想定区域

3.周边状况

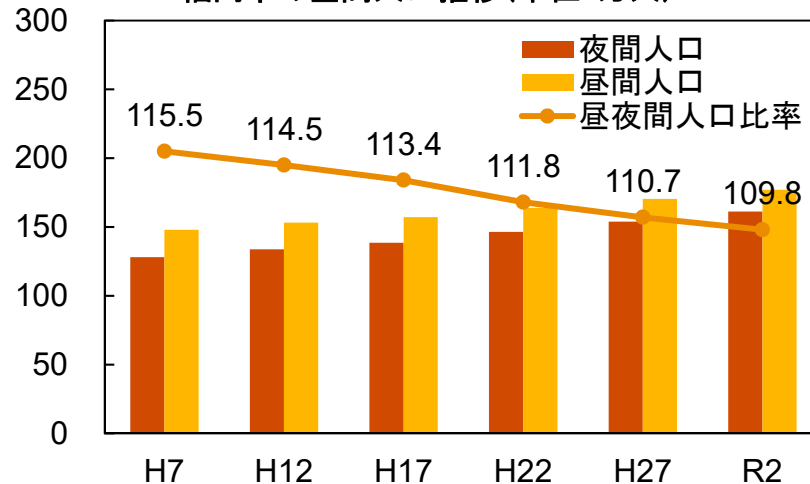
福岡市周辺の人口

福岡市の人口は増加を続けており、令和7年度4月には166万人を超えている。
また、昼間人口、夜間人口*ともに一貫して増加している。

福岡市の人口推移(単位:万人)



福岡市の昼間人口推移(単位:万人)

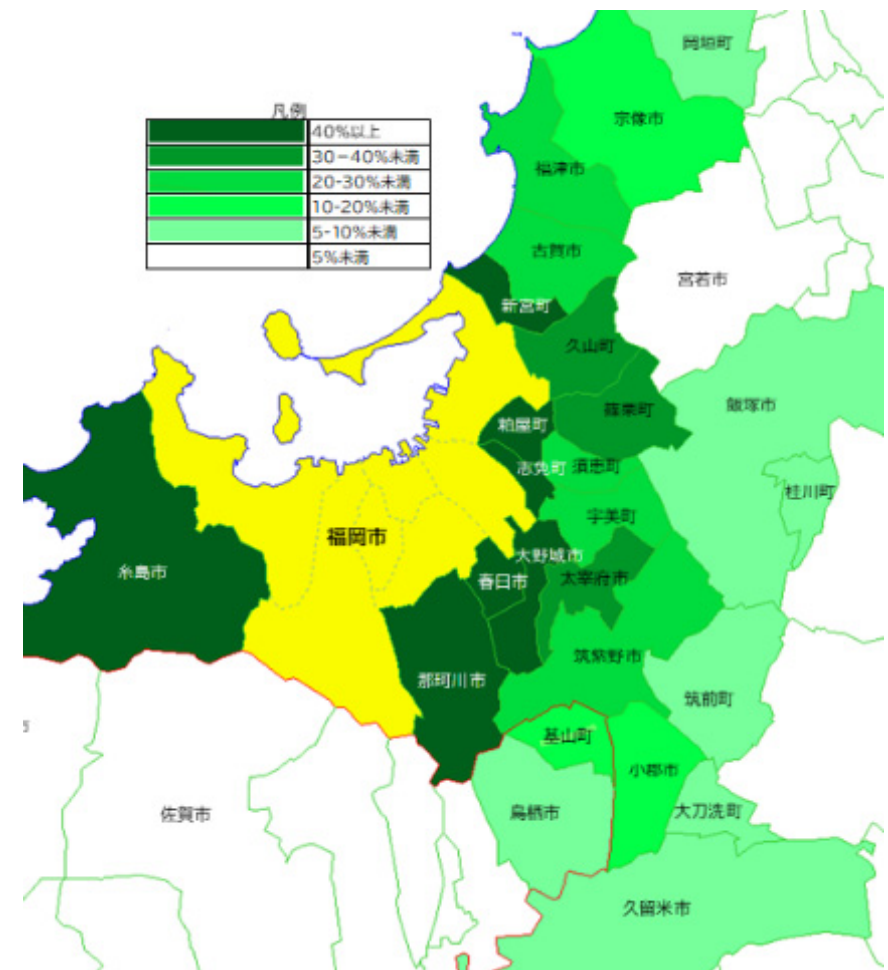


夜間人口:市内に居住する人口

昼間人口:夜間人口に市街から通勤・通学する人口を加え、
市街へ通勤・通学する人口を減じた人口

出典:福岡市HP、国勢調査

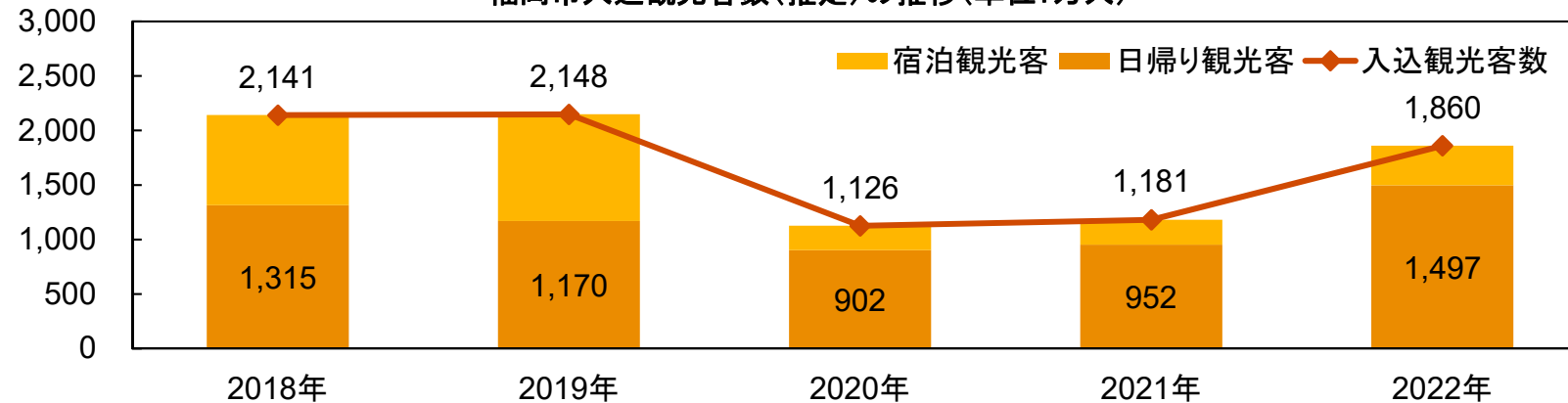
周辺市町村従業員の福岡市従業員割合



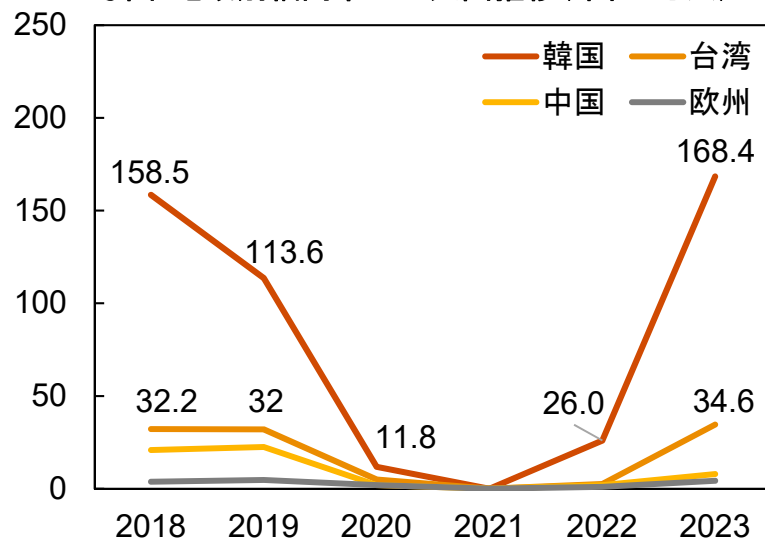
福岡市における観光客の状況

宿泊、日帰り観光客ともに大きく増加しており、日帰り観光客の増加が顕著である。
また、外国人観光客はコロナ前よりも増加している。

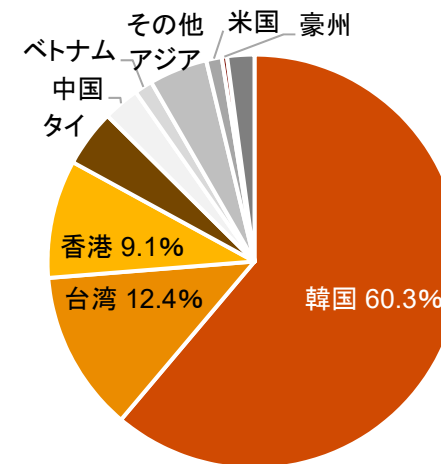
福岡市入込観光客数(推定)の推移(単位:万人)



主な国・地域別福岡市への入国推移(単位:万人)



福岡市における外国人入国者数の割合(2023年速報値)



市内の美術館・文化施設等の状況

福岡市中央区は、豊かな文化を感じられるスポットが数多くある。福岡市美術館と福岡県立美術館では、多様な芸術作品が展示されている。舞鶴公園では歴史的な背景と自然が調和し、地域の文化と歴史を体感できる。

